

成果の説明書

(氏名) 齋川貴嗣	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 国際連盟知的協力国際委員会の研究 知的協力国際委員会の理念変容に関する論文が出版された。</p> <p>齋川貴嗣「知的協力から国際文化交流へ—国際連盟知的協力国際委員会における理念変容」『国際政治』第193号(2018年9月)60-75頁。</p> <p>② ユネスコ史研究 1940年代から50年代初期における日本とユネスコの関係に関する研究報告を、海外学会および国際会議において行った。</p> <p>Takashi Saikawa, “Japan’s Reintegration into the International Society in the 1950s: Japan’s Admission to UNESCO and the Cold War”, Australian Historical Association Conference, Australian National University, 5th July 2018.</p> <p>Takashi Saikawa, “The Formation and Development of the Non-Governmental UNESCO Movement in Japan during the Occupation Period”, International Conference: Global Diplomacy-A Post-Institutional Approach, Institute for European Global Studies, Basel University, 30th August 2018.</p> <p>③ 日本における国際連盟研究の組織化 科研費研究課題「アジア太平洋における国際連盟—新たな国際連盟史研究の構築と発信」(17H02496)の研究分担者およびプロジェクト・マネージャーとして、本研究課題の取りまとめを行った。特に2018年度は日本国際政治学会研究大会において本科研グループの報告パネルを企画するとともに、自身の研究に関する研究報告を行った。</p> <p>齋川貴嗣「国際連盟の知的協力事業と日本・中国」部会3「アジアから見た国際連盟—設立100周年にむけた国際連盟史の再検討」日本国際政治学会2018年研究大会、2018年11月2日。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>日本国際文化学会理事として2018年7月に開催された第17回全国大会に参加し、自由論題セッションBにおいて司会を務めた。同学会では2018年8月より学会年報『インターカルチュラル』編集委員、また2019年4月より同学会常任理事を務める予定。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>2019年度は、第一に、国際連盟知的協力国際委員会に関する博士論文(英文)の出版を目指す。第二に、ユネスコ設立過程における中国の役割に関する研究を進めたい。具体的には、ユネスコ・アーカイブスで入手した連合国教育大臣会議(CAME)およびユネスコ憲章起草会議の議事録を分析し、ユネスコの理念形成における中国の意義を明らかにする。第三に、科研費共同研究の一環として、2019年10月に国際ワークショップを開催し、東アジアから見た連盟の知的協力事業に関する英語報告を行う。このワークショップへの提出ペーパーを編集し、2020年度中に<i>The League of Nations in Asia Pacific</i>(仮題)を共著論文集として出版する予定である。</p>	